

ミニ・バスケットボール時代の経験と 競技継続との関連

—女子大学バスケットボール選手の希求の分析をもとに—

松尾 晋典

最近の運動部員の部活動に対する態度には、多様化の傾向がみられる。部員の運動部活動に関する意識や行動がどのようなものであるか、原因を把握しなければ集団（チーム）としての指導効果は期待できない。そこで本研究は、バスケットボール導入時と大学時における希求の相違を明らかにし、どのような背景を持った選手が、大学以降も運動部活動を続けているのかを比較検討することを目的とした。また、その要因を抽出し、ミニ・バスケットボールにおける動機づけを含んだ指導、さらには継続した運動部活動を志向する選手に対する指導の一資料を得ることを期待した。

キーワード：小学校時代、運動部活動、女子大学生、運動部の充実度、

I 緒言

学校教育における部活動とは、生徒の関心・興味を中心として、自主的活動に重点を置いた教育活動である。また、部活動と生徒の希望による教育課程外の教育活動であり、加入の義務付けはない。これらのことは、教育課程に位置づけられた授業としての教育活動と区別されることを意味する。部活動は生徒の学校生活を活気づかせ、より充実し豊かにするものであり、学校教育に大きく貢献するものである。しかし、最近の運動部員の部活動に対する態度には、多様化の傾向がみられる。部員の運動部活動に関する意識や行動がどのようなものであるか、原因を把握しなければ集団（チーム）としての指導効果は期待できない。

ミニ・バスケットボールは、「子ども達にとって面白いもの、楽しいものであり、本来のバスケットボールをしてみたいと思う動機になったり、スポーツに接する喜びが感じら

れるようなものでなければならない。」(藤田, 1994) という原則に従って、10人以上がゲームに出場しなければならない等のルールで実施されている。この原則は、小学生のスポーツ活動全般に共通するものであり、子ども達の満足度を高めることは、生涯スポーツの観点から見ても大きな成果としてとらえることができる。これらのことから若者にとって競技スキルを習得する主な機会の一つである運動部活動を続けることは意味がある。安田(2009)は、中・高・大学時代に運動部活動に所属している学生を対象に、運動部活動場面における部員のストレス、享受したサポート満足度、自己効力感についての相違を明らかにしている。しかしながら運動部活動を続けることに注目した研究は、ほとんどみられない。

そこで本研究では、バスケットボール導入時と大学時における希求の相違を明らかにし、どのような背景を持った選手が大学以降も運



動部活動を続けているのか、その要因を抽出し、ミニ・バスケットボールにおける動機づけを含んだ指導、さらには継続した運動部活動を志向する選手に対する指導の一資料を得ることを目的とした。

II 研究方法

1. 調査対象

対象としたのは、中国地方のH大学女子バスケットボール部員（1年生2名・2年生9名・3年生4名・合計15名）であり、2012年12月にアンケート調査を行った。すべての選手に対してインフォームドコンセントについての教示を与え、本調査の主旨に対する理解を得た者のみ回答するよう指示した。調査の実施場所と時間は、調査対象者の事情に合わせて任意に決定させた。

2. 調査方法および調査項目

予備調査も考慮し、徳永（2012）、安田ら（2009）、藤田（1993）の項目をもとにアンケートを作成し、調査を行った。質問項目は、「指導者」・「クラブの雰囲気および強さ」・「クラブメンバーの魅力」・「練習」・「充実度」の5要因であり、これらに対して一対比較を行った。なお回答形式は無記名の自記式質問紙調査法によるものとし、本論の目的に直接関連する文言のみを採用した。

III 結果および考察

1. ミニ・バスケットボール時代の記憶

1) 指導者について

ミニ・バスケットボール時代における指導者の記憶をたずねたところ、自由記述の回答を以下の4つのカテゴリーに分類することができた。丁寧に指導してくれた、指導が分かりやすいなどの「熱心な指導」33.3%（5名）、普段はやさしいけど試合中は厳しい、とにかく怒られていたけどたまに褒められるなどの「厳しさと優しさの両面」26.7%（4名）、怖い、優しいなどの「厳しい又は優しいといっ

た一面」26.7%（4名）、不思議な指導などの「その他」13.3%（2名）の4つであった。

このことから、ミニ・バスケットボール時代の指導者に関する記憶は、覚えている側面に違いはあるものの、共通して指導者の内面を印象深く残していることがわかった。

2) クラブの強さおよび雰囲気について

ミニ・バスケットボール時代におけるチームの強さをたずねたところ、「中国大会出場レベル」20%（3名）、「県大会出場レベル」26.7%（4名）、「地区大会出場レベル」53.3%（8名）であった。さらに、クラブにおける雰囲気の記憶では、自由記述の回答を以下の4つのカテゴリーに分類することができた。明るく仲良し、仲良く良い雰囲気などの「仲が良くて楽しい雰囲気」40%（6名）、元気、楽しいなどの「楽しい雰囲気」33.3%（5名）、真面目で真剣、やる時はやるなどの「真面目な雰囲気」13.3%（2名）、普通、良くもなければ悪くもないなどの「普通な雰囲気」13.3%（2名）の4つであった。このことから、ミニ・バスケットボール時代におけるクラブの雰囲気に関する記憶は、個人差はあるもののすべての回答においてマイナスな印象がないことから、チームの強さと部の雰囲気に関係性がないことが考えられた。

3) クラブメンバーの魅力について

ミニ・バスケットボール時代におけるメンバーの魅力の記憶をたずねたところ、自由記述の回答を以下の3つのカテゴリーに分類することができた。年上年下関係なく仲が良かった、学校でも常に一緒などの「仲がよかった」46.7%（7名）、常に仲がよくて喧嘩が多かった、喧嘩をするがいつも一緒に過ごしたなど「喧嘩をするが仲が良かった」33.3%（5名）、負けず嫌いが多く、自分勝手が多いなど「個人の主張が強い」20%（3名）の3つであった。このことから、ミニ・バスケットボール時代におけるメンバーの魅力に関する記憶は、クラブの雰囲気に共通することが多く



マイナスイメージがない。バスケットボールを好きになり、ミニ・バスケットボールを続けた理由としてクラブメンバーとの兼ね合いが大きく関わっていることが分かった。

4) 練習について

ミニ・バスケットボール時代における練習の記憶をたずねたところ、自由記述の回答を以下の3つのカテゴリーに分類することができた。男子との練習が多かったなどの「男子との練習」20% (3名)、1on1が白熱していた、ハンドリングや四角パスなどの基礎メニューが多かったなどの「メニューのイメージ」40% (6名)、練習に行くことが楽しかった、3menも苦ではなかったなどの「楽しむ」40% (6名)であった。このことから、ミニ・バスケットボール時代の練習に関する記憶は、印象に残った練習に対しての記憶が強いことが分かった。

5) 充実度について

ミニ・バスケットボール時代における充実度の記憶では、「はい」% (14名)、「いいえ」% (1名)であった。「はい」と答えた選手の自由記述の回答は以下の3つのカテゴリーに分類することができた。日々上手くなれた、できなかったことができるようになる楽しさなどの「技術向上」42.9% (6名)、友達が作れることが良かった、練習はきつかったけどみんな仲が良かったなどの「クラブメンバー」35.7% (5名)、バスケットボールが楽しいと一番思えた時期などの「個人的感情」21.4% (3名)であった。また「いいえ」と答えた選手の自由記述は、試合で負ける方が多かったので、練習試合でいろいろなチームとの試合を経験したかった、という意見であった。これらのことから、ミニ・バスケットボール時代の充実度に関する記憶は、クラブメンバーとの関係はもとより練習および試合を経験するなかで技術を向上させることが重要であることが分かった。

2. 大学バスケットボールへの希求

1) 指導者について

大学でバスケットボールを継続するにあたって指導者に求めるものをたずねたところ、自由記述の回答を以下の3つのカテゴリーに分類することができた。技術面・知識を教えてもらいたいなどの「技術向上の指導」26.7% (4名)、自分のプレースタイルを生かしたり、直したりしてもらいたい、一人一人とのコミュニケーションなどの「対個人への対応」53.3% (8名)、技術の向上も求めるけど、楽しさも求めるなどの「厳しさと楽しさの両面」20% (3名)であった。このことから、大学バスケットボールにおいて指導者に求めるものは、チームの指導よりも個人の指導を求めていることが分かった。

2) 部の強さおよび雰囲気について

大学でバスケットボールを継続するにあたって、部の強さに求めるものをたずねたところ、強くなることを望んでいる選手は20% (3名)であり、残りの選手は強さよりも重要なものがあることが分かった。また、部の雰囲気に対して求めるものをたずねたところ、自由記述の回答が3つのカテゴリーに分類することができた。楽しく強くなりたい、チームメイトに本音を言える環境をつくって強くなりたいなどの「チームの強さ」20% (3名)、楽しいけどやる時はやる、明るいけどやる時には真剣などの「メリハリ」、言いたいことを言える仲、雰囲気が悪い時こそ盛り上げるべきなどの「コミュニケーション」46.7% (7名)であった。このことから、大学バスケットボールにおいて部の強さや雰囲気に求めるものは、チームの強さよりも部員との関係性を重視していることが分かった。

3) 部員の魅力について

大学でバスケットボールを継続するにあたって部員に求めるものをたずねたところ、自由記述の回答を以下の3つのカテゴリーに分類することができた。ライバル意識を忘れ



ず注意してくれる集団などの「ライバル感」13.3% (2名)、怒ってくれる、悪い所を指摘し合えるなどの「厳しい指摘」20% (3名)、励まし合って一緒に乗り越える、声をかける雰囲気づくりなどの「優しい環境」60% (9名)、無記名の「その他」7.8% (1名)であった。このことから、大学バスケットボールにおいて部員に求めるものは、ライバル心を忘れず、指摘し合える関係を求めていることが分かった。

4) 練習について

大学でバスケットボールを継続するにあたって練習に求めるものをたずねたところ、自由記述の回答を以下の3つのカテゴリーに分類することができた。それぞれの選手に合った個人の技術などの「個人力」13.3% (2人)、達成感のある練習、きつけれど楽しい練習などの「チームの雰囲気」26.7% (4名)、試合に生かされる練習、勝つための練習などの「チームの勝利」60% (9名)であった。このことから、大学バスケットボールにおいて練習に求めるものは、自分の競技力が向上することと、チームが勝利するための練習であることが分かった。

5) 充実度について

大学でバスケットボールを継続するにあたって、さらに充実させるために求めるものをたずねたところ、自由記述の回答が3つのカテゴリーに分類することができた。身体を休めること、練習に合ったオフなどの「休息」33.3% (5名)、もっとチーム内で交流をとること、部員のことを知ることなどの「団結力」46.7% (7名)、コート整備などの「その他」20% (3名)であった。このことから、大学バスケットボールをさらに充実させるために求めるものは、練習の強弱に合わせた休息やチーム内の結束を強くするための取り組みであることが分かった。

3. ミニ・バスケットボール時代の記憶と大学バスケットボールへの希求との関連

1) 指導者について

ミニ・バスケットボール時代の記憶から、共通して指導者の内面を印象深く残していることがわかり、大学バスケットボールでは、チームの指導よりも個人の指導を求めていることが示された。

ミニ・バスケットボール時代の記憶が「熱心な指導」に該当する選手は、大学バスケットボールにおける希求では、「技術向上の指導」を求めることが示された (5名中4名)。高山 (1998) は、指導者に専門的な技術・知識があり研究熱心な場合は、指導者としての資質が最も高いといえるが、専門的な技術・知識がなくても研究熱心な場合は、専門的な技術・知識があるが研究不熱心な指導者に劣らないばかりか、より充実した指導状況にあることを報告している。つまり、ミニ・バスケットボール指導者の取り組む姿勢によって、子供たちとの信頼関係が成立し、子供たちの意欲的な活動を引き出したことが、大学バスケットボール時でも継続して向上心を生みだし、部活動継続における理由の一つになっていることが考えられる。

一方、ミニ・バスケットボール時代に「ひいきが激しい」という記憶がある選手は、大学指導者に対しても「ひいきなしで指導してもらいたい」という希求を示したことから、ミニ・バスケットボール時代の記憶が、大学バスケットボールを続けるにあたって大きく関与していることが分かる。

2) チームの強さおよび雰囲気について

ミニ・バスケットボール時代の記憶で、すべての回答においてマイナスな印象がないことから、チームの強さと部の雰囲気に関係性がないことが考えられ、大学バスケットボールでは、チームの強さよりも部員との関係性を重視していることが示された。

また、大学バスケットボールの希求で「チ



ームの強さ」を求めた選手はすべて、ミニ・バスケットボール時代に「県大会出場レベル」以上のチームに所属していることが明らかになった。このことは、強かったミニ・バスケットボール時の印象がそのまま大学バスケットボールへの取り組み方に反映されていることが考えられた。

3) チームメイトについて

ミニ・バスケットボール時代の記憶で、バスケットボールを好きになり、ミニ・バスケットボールを続けた理由としてクラブメンバーとの兼ね合いが大きく関わっていることが分かり、大学バスケットボールでは、ライバル心を忘れず、指摘し合える関係を求めていることが示された。

ミニ・バスケットボール時代における記憶の自由記述では「喧嘩をする」「自己主張が強い」と回答している選手が多数存在したが、「仲が良かった」「大切な仲間」などすべての回答においてマイナスなイメージがなかった。これらのことから、ミニ・バスケットボール時に言いたいことを言い合って、喧嘩をしながら友達関係を築いていったことが考えられ、大学バスケットボールで指摘しあえる関係を求めることは、ミニ・バスケットボール時代の記憶が関与していることが示唆された。

4) 練習について

ミニ・バスケットボール時代の記憶は、印象に残った練習に対しての記憶が強いことが分かり、大学バスケットボールでは、自分の競技力が向上することと、チームが勝利するための練習であることが分かった。

大学バスケットボールにおける部の強さおよび雰囲気の要因では、チームの強さよりも部員との関係性を重視していることが示されたにも関わらず、練習の要因では自分の競技力が向上し、チームが勝利するための練習を求めるといふ、一見矛盾な結果が示された。今回のアンケート調査では、詳細な見解が示

されなかったもので、今後の課題としたい。

5) 充実度について

ミニ・バスケットボール時代の記憶で、クラブメンバーとの関係はもとより練習および試合を経験するなかで技術を向上させることが重要であることが分かり、大学バスケットボールをさらに充実させるためには、練習の強弱に合わせた休息やチーム内の結束を強くするための取り組みであることが示された。

橋本(1981)は、大学部活動に所属する競技選手が部活動に対して感じる不満や悩みは、練習法や技術に関することが最も多く、ついで自由時間、人間関係、経済面であったことを報告していることから、本研究の結果は先行研究を支持するものであった。

一方、ミニ・バスケットボール時代の記憶で「チームメイト」の回答をした選手のすべてが、大学バスケットボールの希求で「団結力」の回答をしていることが明らかになった。チームの雰囲気およびチームメイトの二つの要因で重要とされてきたチームメイトとの関係が、充実度からみても重要であることが考えられた。さらに、ミニ・バスケットボール時代におけるチームメイトの記憶が、大学バスケットボールを続けるにあたって大きく関与していること示唆するものであった。

IV まとめと今後の課題

本研究は、バスケットボール導入時と大学時における希求の相違を明らかにし、どのような背景を持った選手が大学以降も運動部活動を続けているのか、その要因を抽出し、ミニ・バスケットボールにおける動機づけを含んだ指導、さらには継続した運動部活動を志向する選手に対する指導の一資料を得ることを目的とした。

結果として以下の知見を得た。

1) ミニ・バスケットボール指導者の取り組む姿勢によって、子どもたちとの信頼関係が成立し、子どもたちの意欲的な活動を引



き出したことが、大学バスケットボール時でも継続して向上心を生みだし、部活動継続における理由の一つになっていることが考えられた。

- 2) ミニ・バスケットボール時代の記憶で、クラブメンバーとの関係はもとより練習および試合を経験するなかで技術を向上させることが重要であることが示された。
- 3) 大学バスケットボールを継続し、さらに充実させるためには、練習の強弱に合わせた休息やチーム内の結束を強くするための取り組みであることが示された。このことは「チームの雰囲気」・「チームメイト」の二つの要因で重要とされてきたクラブメンバーとの関係が、「充実度」からみても大きく関与していることが考えられた。

なお、今回は中国地区1部リーグに所属するチームの部活動継続者のみに焦点を当てたが、今後は適切な方法を用いて各レベル・各カテゴリーを比較検討する中で要因を明らかにしていくことが課題である。

V 参考文献

- (1) 高山千代 (1998) 運動部活動指導者の現状と問題点—小学校バスケットボール部指導者への調査をもとに—. 新潟青陵女子短期大学研究報告 第28号. 107-117
- (2) 徳永謙次・真家和生・山城屋正満・玉置正彦・川乃上豊 (2012) 階層分析法 (AHP : Analytic Hierarchy Process) を用いた女子大学生のバスケットボール部選択要因と満足度の要因に関する研究. 大妻女子大学家政系研究紀要 第48号. 43-45
- (3) 橋本一年 (1981) 大学における運動部活動の満足度に関する研究—柔道部員を対象に—. 日本体育学会大会号 (32). 220
- (4) 藤田雅文 (1994) ミニ・バスケットボールクラブ員の期待と満足度に関する研究. 鳴門教育大学研究紀要 生活・健康編9. 43-50
- (5) 安田貢・遠藤俊郎・下川浩一・布施洋・袴田敦士・伊藤潤二 (2009) 大学生の運動部活動に関する回顧調査—中学時代のストレス, サポート,

自己効力感に注目して—. 山梨大学教育実践学研究 第14号. 95-105

- (6) 吉村斉 (1993) 運動系部活集団における人間関係と学校生活への満足度について—生徒の部活動・学習に対する積極性と主将の指導との相互作用効果—. 河内学園大学紀要 第24号. 789 (35) - 801 (47)